

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜盲学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年1月28日(水) 10:00~12:00
- 3 開催場所 岐阜盲学校 多目的室
- 4 参加者 会長 池谷 尚剛 岐阜大学教育学部 名誉教授
副会長 鳴海 裕美子 本校PTA 会長
委員 平井 花画 岐阜県ユネスコ協会 会長
神 尚喜 視覚障害者生活情報センターぎふ アソシア職員
松本 公 京町自治会連合会 会長
岩田 友樹 本校同窓会代表 マッサージ・鍼・灸 もむタロー

学校側 児玉 哲也 校長
堀 晴貴 事務部長
立川 麻里子 教頭
岩井 美喜子 義務部主事
宮地 裕久 高等部主事
竹本 隆浩 教務主任

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 学校評価アンケートの結果と考察の報告
 - ・学校評価アンケートについての分析、考察の報告
 - (2) 各学部の取組等の紹介
 - ・学部ごとに今年度の取組をまとめ、プレゼンテーション
- 意見1: 学校は、人間性・基礎能力・ものの考え方などを学び、大人になるまでのステップを踏んでいく大切な時期であり、様々な場面で適切な支援がされていることが分かった。
- 意見2: 盲学校と地域の交流を大切にしたいと考えているが、地域の子供も少ない状況である。今後どのように交流ができるか検討していきたい。
- 意見3: 児童生徒の減少を受けて、他県の盲学校や県内の小中学校とオンライン交流が盛んに実施されていることが分かった。オンライン交流を継続していくことで、どんな変化がみられてくるかの反応を知ることができるとよい。交流を継続していくことで、その場だけの関係ではなく、困ったときには相談できるような関係を築くことができるとよい。
- 意見4: 学校を卒業することはゴールではなくスタートになる。社会人としてスタートしてみると大変を感じていることや、学校で学んでいくとよかつたことがよくわかる。卒業生にアンケートをとることで、より現実的な意見を聞けるのではないか。
- 職員1: 職員の研究の一環として、理療科卒業生を対象に在学中に学ぶべきことや、つけたい力を電話やメールで聞き取り、結果を研究紀要に掲載し職員間で共有している。また、その結果を理療科講演会の内容や実技のカリキュラムの見直し等に活かしている。進路指導の行事として、10月には先輩の話を聞く会を実施している。講師の卒業生には、在学中に身に付けておきたい力を中心に講演を依頼するなど卒業生の意見を聞く機会を設ける機会としている。

- 意見 5：事業所に実習に行った際に、視覚に障がいがある生徒の受け入れに対して指導員が戸惑う発言があつた。視覚に障がいがあつてもできることはたくさんあり、広く周知していく必要を感じた。
- 意見 6：児童生徒減少に伴いオンラインを活用して、東海地区や全国の盲学校と繋がり交流を深めていくことの成果を確認できた。重複学級の生徒については、卒業後の進路について他の支援学校と連携して情報共有できることがないか模索していく必要を検討したい。

(3) 今年度の取組

- ・令和 7 年度の取組について説明

意見 1：幼児・未就学児童等の見え方の状況を把握できるとよい。今年の 12 月に子どもの権利フォーラムが開催されるため、たくさんの方に見え方について啓発していくたい。

職員 2：就学前段階で視覚障がいを把握するためにも保健師への啓発をしていきたい。

意見 2：趣味で始めたスポーツがある。スポーツを行う際には、視覚障がいがある方とその介助者という関係ではなく、晴眼者もアイマスクをしてスポーツに参加するなど皆で楽しもうとする雰囲気である。介助する、介助される関係よりも親睦を深める機会が増えていくことに期待している。

意見 3：学校行事に地域の方や晴眼者の方々を招待していくことで、交流の場につながるのではないか。今後、検討してほしい。

意見 4：一般の人には、全盲の方と弱視の方の区別がない。盲学校にも弱視の児童生徒が在籍していることを周知する必要性を感じている。

意見 5：弱視通級指導は、盲学校の新しい役割と感じた。盲学校への入学にハードルが高いと感じている児童生徒、保護者の方には必要な支援と感じる。また、中途失明の方が体験入学できる機会があるとよいと感じる。

意見 6：弱視通級指導が始まり、県内で望んでいる方すべてに広めていく必要を感じている。次年度、児童生徒が増加していくのであれば今年度の取組を広げていくことを検討したい。

6 会議のまとめ

- ・第 3 回学校運営協議会は、学校評価アンケートの分析・考察、各学部の取組をプレゼンした。また、「打って出る岐阜盲学校」の今年度の取組として、小中学校における弱視通級指導、ヘルスキー導入に向けた理解啓発について説明し、委員から今後も充実されたいとの意見を得る機会とした。
- ・学校の取組を評価していただいた。特に、オンライン交流や居住地交流などを通して同年代の児童生徒と交流することの大切さを共通認識した。また、児童生徒や卒業生の意見や評価を取り入れていくことで、より良い活動につなげていくことができることを確認した。